

## アレック・ソス 部屋についての部屋 Alec Soth: A Room of Rooms

2024年10月10日（木） – 2025年1月19日（日）



《Anna, Kentfield, California》  
〈I Know How Furiously Your Heart is Beating〉より  
2017年 東京都写真美術館蔵 ©Alec Soth

### 「部屋」をテーマにしたアレック・ソスの大規模個展

このたび東京都写真美術館は、「アレック・ソス 部屋についての部屋」展を開催します。

アレック・ソス（1969-）は、国際的な写真家集団、マグナム・フォトの正会員であり、生まれ育ったアメリカ中西部などを題材とした作品で、世界的に高い評価を受けてきました。

本展では、初期を代表するシリーズ〈Sleeping by the Mississippi〉から、今秋刊行予定の最新作〈Advice for Young Artists〉まで、約60点の作品を6つのセクションで紹介します。30年に及ぶソスの歩みを振り返るだけでなく、「部屋」をテーマにソスのこれまでの作品を編み直す、当館独自の試みです。

初期からソスはアメリカ国内を車で旅し、風景や出会った人々を大判カメラで撮影してきましたが、出品作品シリーズのひとつ〈I Know How Furiously Your Heart is Beating〉ではそうしたロードトリップのスタイルではなく、舞踏家・振付家のアンナ・ハルプリン（1920-2021）や、小説家のハニヤ・ヤナギハラ（1974-）など世界各地にさまざまな人々を訪ね、その人が日々を過ごす部屋の中で、ポートレートや個人的な持ち物を撮影しています。部屋とそこに暮らす人をテーマとするこのシリーズが、本展を生み出すきっかけとなりました。

「ポートレートや風景、静物などを定期的に撮影しているが、最も親しみを感じるのは室内の写真だ」と作家は述べています。ソスの作品に登場するさまざまな部屋や、その空間にたたずむ人々に意識を向けることで、果たして何が見えてくるのか、展覧会と写真集共に多くの支持を得る作家の表現の魅力を探ります。

## 本展のみどころ

### 「部屋」をテーマにした当館独自企画の個展

「部屋」をテーマに、ソスの作品を6つのセクションで構成する当館独自企画の個展です。近作〈I Know How Furiously Your Heart is Beating〉を起点に、ソスの30年に及ぶ表現活動の魅力に迫ります。

### 初期の代表作から、今秋刊行予定の最新作まで一挙公開

〈Sleeping by the Mississippi〉や〈Niagara〉を中心とした初期のカラー作品、ソスが影響を受けた写真家たちのポートレートや、ローカルなコミュニティにおける人々の交流を写したシリーズなど、ソスのこれまでの作品を網羅的に紹介。併せて、2022年から2024年にかけてアメリカの美術学校を舞台に撮影された最新作シリーズ〈Advice for Young Artists〉を、世界初公開します。

### 作家本人登壇のトークイベントを開催

開幕に合わせて作家が来日し、アーティストトークを開催します。作家本人が、本展とこれまでの活動について語る貴重な機会です。ぜひご参加ください。

## 出品作品

約60点。シリーズ〈Sleeping by the Mississippi〉〈Looking for Love〉〈Niagara〉〈Dog Days, Bogotá〉〈Broken Manual〉〈Songbook〉〈Paris Minnesota〉〈I Know How Furiously Your Heart is Beating〉〈A Pound of Pictures〉〈Advice for Young Artists〉ほか。



1



2



3



4



5

- [1] 《Two Towels》 〈Niagara〉より 2004年 作家蔵
  - [2] 《Bil, Sandusky, Ohio》 〈Songbook〉より 2012年 東京都写真美術館蔵
  - [3] 《Still Life II》 〈Advice for Young Artists〉より 2024年 作家蔵
  - [4] 《Crystal, Easter, New Orleans, Louisiana》 〈Sleeping by the Mississippi〉より 2002年 作家蔵
  - [5] 《Untitled 07》 〈Dog Days, Bogotá〉より 2003年 東京都写真美術館蔵
- 図版すべて©Alec Soth

## 作家プロフィール

### アレック・ソス Alec Soth

1969年アメリカ・ミネソタ州ミネアポリス生まれ。現在も同地を拠点に活動。これまでに、『Sleeping by the Mississippi』（Steidl、2004年）、『Niagara』（Steidl、2006年）、『Broken Manual』（Steidl、2010年）、『Songbook』（MACK、2015年）、『I Know How Furiously Your Heart is Beating』（MACK、2019年）、『A Pound of Pictures』（MACK、2022年）など、数多くの作品集を出版。

「Alec Soth: The Space Between Us」（ジュ・ド・ポーム、パリ、2008年）、「From Here to There: Alec Soth's America」（ウォーカー・アート・センター、ミネソタ、2010年）、「Gathered Leaves: Photographs by Alec Soth」（メディア・スペース、ロンドン、2015年）など個展も多数。2022年には日本の美術館で初の個展「アレック・ソス Gathered Leaves」（神奈川県立近代美術館 葉山、神奈川）が開催された。2004年に国際的な写真家集団「マグナム・フォト」に参加し、2008年より正会員。2008年から出版や教育活動を行うレーベル「Little Brown Mushroom」を主宰している。



撮影：Sterre Otten

## 関連事業

### アレック・ソス アーティストトーク

10月12日（土）14:00～16:00

会場：東京都写真美術館 1階ホール

定員：190名（整理番号順入場／自由席／逐次通訳付）

参加費：無料

※当日10:00より1階総合受付にて整理券を配布します。

### 担当学芸員によるギャラリートーク

10月18日（金）14:00～

12月6日（金）14:00～ 手話通訳付き

1月10日（金）14:00～ 手話通訳付き

※当日有効の本展チケット、展覧会無料対象者の方は各種証明書等をお持ちのうえ2階展示室入口にお集まりください。

## 展覧会図録

### 『アレック・ソス 部屋についての部屋』

サイズ：B5判 ページ数：未定

価格：未定 発行：東京都写真美術館

論考：伊藤貴弘（東京都写真美術館 学芸員）

## 開催概要

展覧会名（和） | アレック・ソス 部屋についての部屋

展覧会名（英） | Alec Soth: A Room of Rooms

会期 | 2024年10月10日（木） - 2025年1月19日（日）

会場 | 東京都写真美術館 2階展示室

主催 | 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

協賛 | 東京都写真美術館支援会員

電話 | 03-3280-0099 WEB | [www.topmuseum.jp](http://www.topmuseum.jp)

開館時間 | 10:00-18:00（木・金曜日は20:00まで）※入館は閉館30分前まで

休館日 | 毎週月曜日（月曜日が祝休日の場合は翌平日）、年末年始（12/29-1/1）

観覧料 | 一般800円（640円）、学生640円（510円）、中高生・65歳以上400円（320円）

※（ ）は有料入場者20名以上の団体、当館映画鑑賞券提示者、各種カード等会員割引料金

※小学生以下及び都内在住・在学の中学生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者（2名まで）は無料

※オンラインで日時指定チケットを購入いただけます。

事業内容は諸般の事情により変更する場合があります。

## このリリースのお問い合わせ先

このリリースに掲載されている図版をデータにてご用意しております。掲載をご希望の際は、広報担当までご連絡ください。

\* 図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよび和英いずれかクレジットの表記をお願いします。

\* オンライン媒体への図版掲載は作品保護の観点から、長辺800~1,000ピクセル以下をご利用ください。

\* 図版の無断掲載はご遠慮ください。また、トリミング、文字掛け等の加工はできません。

**東京都写真美術館** 〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM 電話 03-3280-0034 / FAX 03-3280-0033 / [www.topmuseum.jp](http://www.topmuseum.jp)

東京都写真美術館 管理課 企画広報係 [press-info@topmuseum.jp](mailto:press-info@topmuseum.jp)

展覧会担当 伊藤貴弘（東京都写真美術館学芸員）